



呉中だより



No. 5 令和3年9月14日

富山市立呉羽中学校

なりたい自分をしっかりもって、なれる自分を増やしていこう！2

校長 中林 直紀

1学期の終業式で、大谷翔平選手の例を出し、目標をもって生活することの大切さについて三つのことをポイントに話しました。

- ① 以前の「自分を超越」こと
- ② 「できない」という「ストレス」を乗り越え、少しずつ「なりたい自分」を達成し、「なれる自分」をつくっていったこと
- ③ 2学期の始業式には、メンタル（心）が少し成長し、今の自分に必要な「なりたい自分」（目標）をもった、元気な「呉中生」に出会えることを楽しみにしていること

をリモートでの始業式になりましたが、朝、玄関で生徒の元気な姿を見て、うれしくなりました。

15年ほど前の話です。私は、奈良県に野球部の遠征でT中学校を訪れました。

T中学校の野球部の顧問、N先生から、「生まれつき『左手の5本の指がない』選手がいる。」と聞いていました。古い話ですが、メジャーリーグのエンゼルスやヤンキースで活躍したジム・アボット投手（左投・左打）を思い出しました。アボット投手は、先天性右手欠損というハンディキャップを抱えていました。

グラウンドに着いたら、T中学校の選手たちは、キャッチボールをしていました。

私は、N先生に「どこにその選手は、いるのですか？」と尋ねたところ、「すぐ、目の前にいますよ」と言われました。よく見ると、すぐ目の前（5m先）に目当ての選手はいました。

その選手は右手でボールを投げたら、左脇に抱えていたグラブを右手にはめ、返ってきたボールを右手で受け、グラブを左脇に抱えると同時に、右手でグラブの中のボールをつかみ、相手に投げ返していました。非常に、難しい動作をいとも簡単にこなしていました。他の選手と変わらないようなスムーズさでした。驚きでした。

試合には、一塁手として出場していました。打つときは、左打席でしたが、右手一本（左手はそえているだけ）でバットを振っていました。試合ではヒットも打っていました。驚きの連続でした。

N先生によると、「日頃の生活については、左手が使えないことを苦にせず、みんなと同じようにしている。給食当番は、大食缶を左脇に抱え、右手で配膳する。トレーニングでは、「腕立て伏せ」（30回）は、指がないのでバランスが悪く、みんなと同じようにはできないが、同じようにやっていた。素振りは、毎日300回程度当たり前に振っているし、鉄棒の懸垂もできる限りチャレンジしている。」とのことでした。

N先生も手加減はしなかったそうです。周囲の生徒と同じようにさせていました。厳しい先生だなと思いました。その子にとっては、それが普通でよかったのです。できるように努力するのが「当たり前」だったのです。

大変な「障害（苦難）」を抱えていましたが、努力によって、その「障害（苦難）」を乗り越えていました。「できない」という「ストレス」を乗り越え、少しずつ「なりたい自分」を達成し、「なれる自分」をつくっていったのです。

呉中生にも、様々な「障害（苦難）」があったとしても、くじけず、粘り強く努力（チャレンジ）し、昨日までの自分を乗り越え、「なりたい自分」を「なれる自分」に変えていって欲しいと願っています。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大が未だに心配な状態で、慎重に対応しなければなりません。先生方の話をよく聴き、感染予防対策に気を配り、楽しく、有意義な学校生活送って下さい。

（始業式 式辞より）

【9月の日程】（変更の可能性あります）

1日(水)	シェイクアウト訓練	24日(金)	生徒会役員選挙
17日(金)	市新人大会延期	25日(土)	統一学校公開日
20日(月)	敬老の日	27日(月)	振替休業日
23日(木)	秋分の日	30日(木)	中間考査(～10/1)



北信越富山大会結果 7月31日、8月3～5日

各会場で、炎天下、感染症対策を施しながら、県代表同士の熱い戦いが繰り広げられました。どの試合も手に汗握る熱戦。練習の成果を発揮し、他県代表に挑みました。この大会で得た収穫と課題を財産にして、次の大会に向けた準備を進めました。

- ソフトボール（会場：岩瀬スポーツ公園）ベスト8
- 硬式テニス男子団体（会場：岩瀬スポーツ公園）3位
- 柔道男子（会場：アルビス小杉総合体育センター）
 - ・50kg級…出場、60kg級…個人3位、73kg級…個人3位
- 柔道女子（会場：アルビス小杉総合体育センター）
 - ・44kg級…出場、48kg級…出場、52kg級…出場、70kg級…出場
- 剣道女子（会場：西部体育センター）
 - ・団体予選リーグ出場
- ハンドボール（会場：氷見ふれあいスポーツセンター）
 - ・男子…準優勝 女子…ベスト8



全国中学校体育大会出場!! 8月20日～25日

柔道部(男女)、剣道部(女子)、ハンドボール部(男子)、相撲部が県や北信越大会の予選を経て全中大会出場を果たし、各地で活躍することができました。各会場で厳重な感染症対策を施した中での大会を終えて、充実感を胸に戦いを終えて3年間の集大成となった部員、悔しい思いの中で来年への課題を見出した部員等、それぞれにかけがえのない体験とともに成果を持ち帰ることができました。コロナ禍ということで、帯同や観戦に制限がある中、ご家族の皆様にはいろいろなサポートをいただき、ありがとうございました。また、指導に携わっていただいている皆様、大会運営にご尽力くださった関係各位、様々な形で支援してくださった中体連等の皆様にも改めて感謝申し上げます。

- 柔道男子(会場：ALSOKぐんまアリーナ)・60kg級…出場、73kg級…出場
- 柔道女子(会場：ALSOKぐんまアリーナ)・70kg級…初戦突破、
 - ・44kg級…出場、52kg級…出場

- 剣道女子(会場：川崎市とどろぎアリーナ)・団体…出場

- ハンドボール男子(会場：さいたま市浦和駒場体育館)
 - ・2回戦進出

- 相撲：（会場：アリーナ立川立飛）
 - ・団体戦 3回戦 予選突破
 - ・個人戦 2名予選突破
 - ・団体決勝トーナメント 2回戦進出
 - ・個人決勝トーナメント 2回戦進出

